



高大接続改革への対応に 関する高校側の意見

東北大学高度教養教育・学生支援機構
教授 倉元 直樹



本発表の構成

- はじめに
- 問題
- 東北大学の検討課題
- 自己採点利用方式とは？
- 高校調査
- 自己採点利用方式に対する意見
- 英語認定試験について
- 記述式問題活用について
- まとめ

2018/5/20 平成30年度入試科学研究会 2



はじめに(1)

- 大学入試制度の変更に伴うスケジュール問題の構造 (倉元, 2012)
 - 大学入試をめぐる大学と高校の非対称性
 - 通常でも **2年前予告では遅い!**
→ **すべての入試改革は改善** と認識される
- 平成33年度入試制度変更問題の異常さ
 - 現時点で **新入試制度の詳細が見えていない!**

2018/5/20 平成30年度入試科学研究会 3

はじめに (2)

- 高大接続改革の三つの柱
 1. **民間の英語資格・検定試験** の大学入試への活用
 - 本発表の2つ目のテーマ
 2. **大学入学共通テストへの記述式問題の導入**
 - 本発表の1つ目と3つ目のテーマ
 3. 個別大学における **主体性の評価**
 - 明日の第28回東北大学高等教育フォーラムで

2018/5/20 平成30年度入試科研究会1回研究会 4

問題 (1)

- 文部科学省「実施方針」 (2017年7月)
 - 英語：各大学は、認定試験の活用や、**個別試験**により**英語4技能を総合的に評価するよう努める**
 - 記述式：大学が指定した教科・科目については、**すべての問の活用を求める**
- 国大協「意見」 (2017年6月)
 - 遅くとも8月末までに基本方針策定に必要な事項を明示するように要望

2018/5/20 平成30年度入試科研究会1回研究会 5

問題 (2)

- 国立大学協会「基本方針」 (2017年11月)
 - 詳細が明示されていない段階での基本方針発表
 - **国立大学一般入試全受験生** に対して英語認定試験と5教科7科目 (記述式問題が出題される「国語」, 「数学I・数学A」を含む) を課す
- 「**会長談話**」を同時に発表
 - 6月に指摘した**諸問題は解決されていない**が、各大学の準備や受験生の心構えを配慮

2018/5/20 平成30年度入試科研究会1回研究会 6

問題(3)

- 大学入試センターによる準備スケジュール
 - 2017年11月：第1回試行調査（英語除く）実施
 - 2017年12月4日：記述式を除く分析結果速報公表
 - 2018年2月：第1回試行調査（英語等）実施
 - 2018年3月26日：英語、記述式の分析結果公表
 - 2018年3月26日：英語認定試験審査結果 公表
 - 2018年11月10, 11日：第2回試行調査 実施（予定）

東北大学の検討課題(1)

1. AO入試Ⅲ期日程問題：記述式導入で実施不能
 - AOⅢ期は第1次選考でセンター試験を利用
 - 記述式導入 → 成績提供時期1週間程度遅れる
 - マーク式先行提供を働きかけるが一顧だにされず
 - そもそも記述式採点が間に合うのか？
 - 現状の方法をなるべく変えない方法は？
 - 自己採点利用方式 の考案
 - 突飛さは否めず、コンセンサス作りと周知 の必要

東北大学の検討課題(2)

2. 英語認定試験の活用
 - 前提条件が整っていないままの導入
 - 国大協が文科省の実施方針よりも踏み込んだ決定
3. 記述式問題の活用
 - 国立大学は個別で記述式出題（宮本・倉元，2017）
 - 共通試験の記述式問題は国立大学では無意味
 - 国大協が求めた条件が整っていない
 - ← これらに関する高校の認識は？

自己採点利用方式とは？(1)

- 自己採点利用方式とは？
 - 自己採点結果を申告 → 第1次選考に活用
 - 最終合否判定はセンターから提供される成績による
- 自己採点と出願行動
 - 自己採点制度：共通1次時代には存在
 - 自己採点結果を個別大学出願のために利用
 - 正確な自己採点
 - 出願先の決定に不可欠 (内田他, 2017)

2018/5/20 平成30年度入試科研究研究会 10

自己採点利用方式とは？(2)

- A O III期の実施方法案
 - 第1次選考廃止
 - 一部の募集単位では事実上不可能
 - 選抜の負担が極大に → 選抜方法の粗略化
 - 求める学生像と乖離した志願者層へ
 - 書類審査による第1次選考
 - 「公平性の原則」「継続性の原則」に乖離
 - 選抜制度の崩壊へ

2018/5/20 平成30年度入試科研究研究会 11

自己採点利用方式とは？(3)

- 第1次選考用の筆記試験導入
 - A O II期に酷似, 受験生に負担
 - 日程的に不可能
- 自己採点利用方式
 - 第2次選考はセンター提供の成績が大前提
 - 前例がない → 志願者に公平性への疑念も
 - 正確さに関する疑念
 - 最適ではないが苦肉の策 ← 唯一の可能な方法

2018/5/20 平成30年度入試科研究研究会 12

高校調査(1)

- 目的
 - **自己採点利用方式** への賛否
 - 英語認定試験の活用に関する **国大協方針への賛否**
 - 新共通テストの **記述式問題活用への態度**
- 方法
 - 調査対象: **東北大学への進学者が多い高校**
4年間で合格者数8名以上等の計269校
 - 調査方法: **質問紙**, 郵送法, 詳しい教員が記入

2018/5/20 平成30年度入試科研究研究会 13

高校調査(2)

- **集計方法**:
単純集計, 全志願者数重み, 全合格者数重み, A○Ⅲ期志願者数重み, A○Ⅲ期合格者数重み
- 調査設計カバー率:
調査対象校: 全国の高等学校の **54%**
重みづけ集計: 全志願者数で東北大学志願者の8割
A○Ⅲ期合格者数でA○Ⅲ期合格者の9割超

← **東北大学に志願者を送り出す高校の代表意見**

2018/5/20 平成30年度入試科研究研究会 14

自己採点利用方式に関する意見(1)

AOⅢ期に対する知識

	よく知っている	ある程度知っている	あまり知らない	ほとんど知らない
単純集計	111 (50.9%)	95 (43.6%)	10 (4.6%)	2 (0.9%)
A○Ⅲ志願者数	1,829 (76.6%)	510 (21.4%)	32 (1.3%)	17 (0.7%)
A○Ⅲ合格者数	795 (81.0%)	174 (17.7%)	7 (0.7%)	5 (0.5%)

2018/5/20 平成30年度入試科研究研究会 15

自己採点利用方式に関する意見 (2)

AOⅢ期に対する関心

	強い関心がある	ある程度の関心がある	あまり関心ない	ほとんど関心ない
単純集計	135 (61.9%)	75 (34.4%)	8 (3.7%)	0 (0.0%)
AOⅢ志願者数	2,009 (84.1%)	354 (14.8%)	25 (1.1%)	0 (0.0%)
AOⅢ合格者数	867 (88.4%)	110 (11.2%)	4 (0.4%)	0 (0.0%)

2018/5/20 平成30年度入試科研究會1回研究會 16

自己採点利用方式に関する意見 (3)

自己採点利用方式に対する態度

	導入もやむを得ない	AOⅢ期を廃止すべき
単純集計	121 (58.5%)	86 (41.6%)
AOⅢ志願者数	1,202 (53.3%)	1,052 (46.7%)
AOⅢ合格者数	527 (56.9%)	400 (43.1%)

2018/5/20 平成30年度入試科研究會1回研究會 17

自己採点利用方式に関する意見 (4)

- 自己採点利用方式に関する選択肢
 - 導入もやむを得ない
 - AO入試Ⅲ期を廃止すべき
- 結果
 - 賛否はほぼ **6:4** で分かれる
 - 容認理由：**AOⅢ期への高評価**、必要性の認識
 - 廃止理由：**不正申告への懸念**、自己採点の不正確さ

2018/5/20 平成30年度入試科研究會1回研究會 18

自己採点利用方式に関する意見 (5)

自己採点が不正確な東北大学受験者

	ほとんど存在しない	少数は存在する	相当数存在する
単純集計	30 (13.8%)	148 (68.2%)	39 (18.0%)
A〇Ⅲ志願者数	208 (8.7%)	1,733 (72.6%)	446 (18.7%)
A〇Ⅲ合格者数	85 (8.7%)	747 (76.2%)	149 (15.2%)

2018/5/20 平成30年度入試科研究1回研究会 19

自己採点利用方式に関する意見 (6)

- 自己採点の正確性に関する質問
 - 記述式問題は除いて回答
 - 自己採点が不正確な東北大学受験者について
- 結果
 - 7割程度が「少数は存在する」と回答
 - 存在しない：不正申告へのインセンティブがない
 - 存在する：現状無い、不正申告が誘発される
 - 現状分析か、自己採点利用方式導入時の予測か？

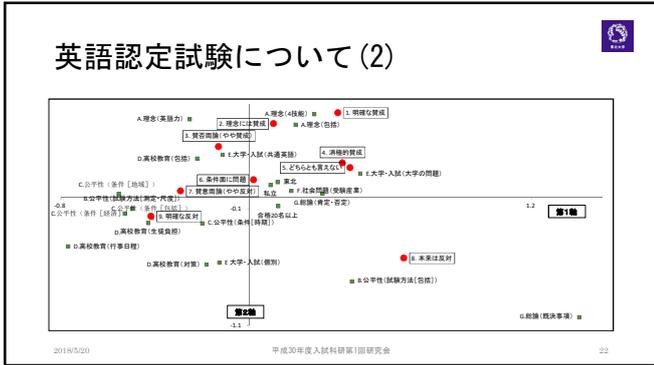
2018/5/20 平成30年度入試科研究1回研究会 20

英語認定試験について (1)

英語認定試験に関する国大協方針への賛否

	「基本方針」に賛成	「基本方針」はやむをえない	「基本方針」に反対
単純集計	18 (8.3%)	107 (49.5%)	91 (42.1%)
全志願者数	1,370 (6.5%)	10,395 (49.0%)	9,440 (44.5%)
全合格者数	442 (5.9%)	3,694 (49.2%)	3,376 (44.9%)

2018/5/20 平成30年度入試科研究1回研究会 21

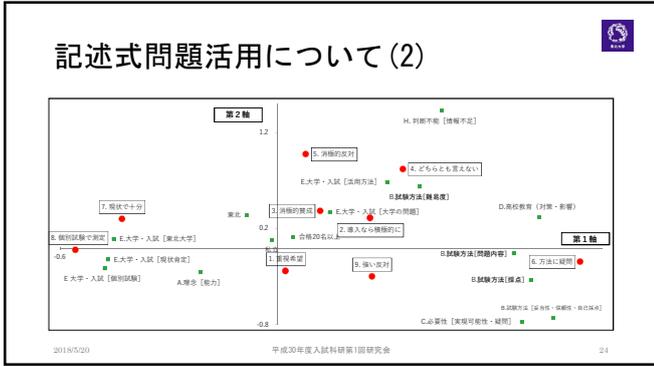


記述式問題活用について(1)

新共通テストの記述式問題活用

	とても重視してほしい	どちらとも言えない	あまり重視してほしくない
単純集計	12 (5.6%)	118 (55.1%)	84 (39.3%)
全志願者数	530 (2.5%)	12,525 (59.9%)	7,845 (37.5%)
全合格者数	185 (2.5%)	4,386 (59.1%)	2,853 (38.4%)

2018/5/20 平成30年度入試科研究會 23



まとめ

- 高大接続改革計画の **根本的矛盾**
- 個別大学の立場
- 自己採点利用方式への意見
→ **制度の細部設計** へのヒント
- 英語認定試験については **極めて厳しい意見**
- 記述式活用の必要性は感じられない
- **歴史への記録** として何を残すべきだろうか？

2018/5/20 平成30年度入試科研究1回研究会 25

さいごに(1)

- 日本国憲法第23条
学問の自由 はこれを保障する。
- 学問の自由
研究・講義などの学問的活動において **外部からの介入や干渉を受けない自由**
- 大学の自治
大学の教授その他の研究者の人事、大学の施設の管理、**学生の管理**
- 学生を選抜する権利？

2018/5/20 平成30年度入試科研究1回研究会 26

さいごに(2)

「高等学校基礎学力テスト(仮称)」と「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の
 関係性と大学入学選抜への活用方策のイメージ
→ 一般入試・推薦入試の区分を撤廃し、入学選抜全体において、アドミッション・ポリシーに基づき大学入学希望者の多様な能力を多面的に評価する選抜へ抜本的に改革

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性
高1 テストの 難易度			
1 級			

高等学校基礎学力テスト(仮称) → 大学入学希望者学力評価テスト(仮称) → 各大学における個別選抜

(小論文、プレゼンテーション、集団討論、面接、推薦書、調査書、資格試験等)

大学入学希望者への活用
(大学入学希望者、大学入学希望者(推薦枠)など)の活用
高等学校に在籍する希望者は、推薦枠での入学希望者の一部として活用可能

大学入学選抜後の目的の達成
大学教育の質の確保(社会的責任の果たし)

2018/5/20 平成30年度入試科研究1回研究会 27

- 本発表の内容は以下の「1」「2」「3」を付加
 1. 倉元直樹・長濱裕幸 (2018). 高大接続改革への対応に関する高校側の意見——自己採点利用方式による第1次選考, 認定試験及び新共通テスト記述式問題の活用——, **全国大学入学者選抜研究連絡協議会第13回大会** 研究発表予稿集, 印刷中.
 2. 倉元直樹・宮本友弘 (2018). 大学入試における英語認定試験の利用に対する高校側の意見——主として賛否の根拠をめぐって——, **日本教育心理学会第60回総会** 発表論文集, 印刷中.
 3. 倉元直樹・宮本友弘・泉毅 (2018). 大学入学共通テスト記述式問題の利用に対する高校側の意見, **日本心理学会第82回大会** 発表論文集, 印刷中.



2018/5/20

平成30年度入試科研究第1回研究会

28
